

桑名文協

令和3年9月15日

創刊50号
記念号

桑名市文化協会
桑名市中央町2丁目37
TEL 24-1361
<https://bunkyo-kuwana.jp>

桑名文協 創刊50号を記念して

桑名市文化協会

副会長（広報担当）

丹羽宗俊

（茶華香道部門 茶道裏千家）

平成五年八月一日「桑名文協創刊号」が出されました。B4判片面サイズ一枚でした。その記念すべき日は、どんな天気だったのだろうか？などと考えます。まるで我が子が生まれた日を思い出すように。

創刊号を発刊した人々も、きつと桑名市文化協会の健やかな発展を願い、桑名市の文化の洋々たる未来を思っ送り出したことでしょう。



▲令和3年度 広報委員
(撮影のためマスクを外しています)

それから五十号。二十八年という年月をかけて、文化を愛する多くの人々の力で続けられてきました。そうしてここに、五十号を発刊できますことは、大変幸せです。深く感謝申し上げます。

四十九号は、去年からのコロナ禍の中でもがんばって活動を続けていた会員の方々のようすを紹介しました。

五十号では、相変わらず続くコロナ禍の中で活動を始めて何十年という祝すべき節目の年を迎えられた団体の方々に、その苦労や喜びを、又、創刊以来長く続いている記事の執筆者にも、その思いを書いてもうしました。

長びくコロナ禍の中で、日常生活が様変わりし、文化活動の進め方も大きく、小さく変わらざるを得なくなりました。こんな中でも文化の持つ「心の豊かさ」をみんなで守り続けて、未来につなげていきたいと思います。

これからどんな時代が来るのか、どんな時代になるのか、予測もできませんが、どんな時代になろうとも「桑名文協」は、心の渇きを癒す文化の灯を未来につなげていく。発表の場、各部門たすけ合っていく場、楽しみ合える場——となる広報紙としてあり続けたいと念じています。

そんな思いをこめて広報委員一同、マスクをかけてがんばります。これからも「桑名文協」をご愛読いただきますよう、又、ご寄稿もよろしくお願い申し上げます。

他部門への窓

広報委員 相原千景

（演劇部門 演劇集団Cフレンド）

広報委員として「桑名文協」に携わらせていただき、もう十年にもなりますか。楽しく活動させていただいております。

各部門の委員さんと校正作業でじっくり向き合っていく記事の内容は、どれも面白く興味深く、残念ながら字数の関係で紙面に載せることができなかったお話も何うかができ、へえ！そうだったんだ！と新たな世界を知ることが多々あります。まるで、その部門の活動にちよこつと参加させていたいているかのようです。バリエーション豊かな分野への窓が開いている「桑名文協」を、多くの人に読んでいただきたいと思ひます。

また、私には幼い子供が二人いますが、連れて会議に参加しても皆さん優しく迎え入れてくださいます。いつも和やかで和気あいあいと、そして活気ある広報委員会。その傍らでうちの子供らがお弁当やお菓子を食べています（笑）市民が生活の一部として文化に携わる。そんな桑名の姿の片鱗がここにはあると、しみじみ感じます。

広報紙「桑名文協」のあゆみ

桑名市文化協会会員と共に歩んできた「桑名文協」をふり返ります。

○平成5年 文化協会発足

第1号（H5.8.1発行）
B4サイズ片面1枚に印刷

○平成7年度より広報委員が選出される。

第4号（H8.3.20発行）
よりA4サイズ6ページの広報紙に

○第10号（平成13年10月15日発行）より年2回の発行に。

○第13号（平成15年3月15日発行）より文学部門による「文協文芸」を掲載。

○第26号（平成21年9月20日発行）より白コート紙に印刷。



第47号（R2.3.15発行）
よりカラー印刷に

バックナンバーは、文化協会のホームページでご覧いただけます。桑名市文化協会HP <https://bunkyo-kuwana.jp/>



第30回 桑名市民芸術文化祭 ～プログラム～

右記の日程で市民芸術文化祭を開催します。
さまざまな文化・芸術にふれてみませんか。
皆様のご来場をお待ちしています。



●協賛事業

桑名美術クラブ45周年記念展

くわなメディアライヴ
多目的ホール

10月 7日(木)
～10月10日(日)

9時～17時 初日は12時より
最終日は16時30分まで 【入場無料】
桑名美術クラブ発足45周年の記念展覧会。
会員の絵画作品の集大成をお楽しみください。

劇団すがお 創立60周年記念公演 「水郷燃ゆ」～長島一向一揆の闘い～

大山田コミュニティプラザ
文化ホール

10月23日(土) 16時～18時
10月24日(日) 10時～15時30分
(開場 60分前)

史実に基づくフィクション。
コロナウイルスの影響で2月に延期になりました。
チケット(有料) 詳しくは劇団すがおHPをチェック!
<http://gekidan-sugao.org>

第18回東海西部地区相撲甚句発表大会

大山田コミュニティプラザ
文化ホール

10月30日(土)
12時(開場12時)

相撲甚句は国技相撲と共に脈が通ってきた伝統的な文化です。新型コロナウイルスの影響で中止となっていたが、今年は桑名で開催されます。【入場無料】

演劇の祭典

Web配信 【チケット購入必要】

演劇集団Cブレンド オンライン配信公演「鬼サミット」

10月1日(金)～11月30日(火)

【配信視聴チケット】1,500円 期間中見放題!
チケット購入・詳細はCブレンドのホームページ、
Twitter、Instagramなどをチェック! <http://c-blend.net>

趣味教養祭(桑名愛石会第47回水石展)【入場無料】

10月16日(土) 9時～17時
10月17日(日) 9時～15時

場所:くわなメディアライヴ 多目的ホール

音楽のフルコース

【入場無料】

11月14日(日) 13時～16時(開場12時30分) 【整理券必要】

※入場整理券(無料)が必要です。配布開始 10月15日より
配布場所: NTNシティホール 受付

桑名市文化協会事務局 (市役所3Fブランド推進課内)

場所:NTNシティホール 小ホール

美術部門展 2021

【入場無料】

11月20日(土) 12時～17時
11月21日(日) 9時～17時
11月22日(月) 9時～16時

場所:くわなメディアライヴ 多目的ホール

ダンス、DE、パフォーマンス“2021”【入場無料】

11月23日(火・祝) 13時30分～16時30分(開場13時)

場所:大山田コミュニティプラザ 文化ホール

小倉百人一首 初心者から取り大会

【入場無料】

11月28日(日) 9時30分～12時30分

場所:桑名市パブリックセンター 日本間

趣味教養祭 (パッチワーク)

展示と体験(材料費必要)

12月11日(土) 9時～17時
12月12日(日) 9時～15時

【入場無料】

場所:くわなメディアライヴ 多目的ホール

くわコレ'21

展示と体験(材料費必要)

12月18日(土) 13時～16時
12月19日(日) 9時～15時30分

【入場無料】

場所:くわなメディアライヴ 多目的ホール

社会文化部門展 ～暮らしの近くに息づく文化～

12月18日(土) 11時～16時30分
12月19日(日) 9時～15時30分

【入場無料】

場所:くわなメディアライヴ 多目的ホール

芸能の祭典 (日本舞踊、箏曲、民謡、大正琴など)

【入場無料】

2022年1月29日(土) 13時～16時(開場12時)
1月30日(日) 10時～16時(開場9時30分)

場所:NTNシティホール 小ホール

「桑名文協」に文芸作品発表

2022年3月発行

場所:各まちづくり拠点施設、公共施設等にて配布

☆新型コロナウイルスの影響で、文化祭の催し・協賛事業
が中止または変更になる場合があります。最新の情報は
桑名市文化協会ホームページをご確認ください。

<https://bunkyo-kuwana.jp>

☆お問い合わせ

文化協会事務局(桑名市ブランド推進課内)
(TEL24-1361 FAX24-2474)まで



社会文化部門としての

文化祭への参画

社会文化部門（個人会員）

大河内 浩

桑名市文化協会の設立は平成五年六月ですが、市民芸術文化祭はその前年に始まり、文化祭回数は協会の年次より一つ、周年数より二つ多く推移しています。令和五年の協会30周年に先立ち、文化祭は本年30回を迎えます。

社会文化部門は舞台発表や作品展示という形になじまないもので、協会設立年の第二回文化祭で「ざつくばらんトーク：桑名の文化をみつめて」と題し、小川・大河内が講師のような形で話を進め、質問を受けて話題を広げる、という席を設けました。

幸いにもこれが好評を博し、以後各界から著名人を招き14年まで



▲平成16年第13回文化祭企画「石取祭勉強会」は大山田コミュニティプラザホールへ石取祭車を搬入し、中会議室（写真）も併用しての一大企画でした

連年10回行いました。その後は日韓交流行事や千羽鶴体験など趣向を変えて催しましたが、常に課題となるのは集客です。特定の日時に限ると、よほど魅力がないと多くの集客が達成できず、この点、作品ではありませんが展示という形は自由観覧で時間帯にも束縛されず、声を掛けやすくなります。

平成23年に市民会館（現NTNシティホール）展示室で二日間に亘り石取祭に関連した展示を行い、以後はほぼ毎年その時々の話題に着眼し、このような形で企画して来ましたが、長期的には展示企画や構想に限界を感じつつあり、会員増強という共通課題に集約されるかと思えます。

尺八教室「豊山会」と共に

芸能I部門 都山流尺八豊山会

佐藤勝彦（豊勝）

尺八と関わって十数年。出会いは桑名市の広報で目にした「生徒募集」の記事です。定年退職をして、何か趣味を持ちたいと思っていた時に、当時は山に登る事、趣味にしていたが、体力が無くなれば無理です。又、この頃は高齢者の「痴呆症」が時事ニュースで取り上げられた頃です。尺八は、と言われた頃です。尺八は有効

指先を使う動作です。迷わずに入会させてもらいました。習いはじめた。二、三年。何となく曲が吹ける様になった。リユウツクの中に尺八を入れ、鈴鹿の山で臆面もなく吹いた事が昨日の様に思い出されます。



尺八の歴史は、中国の唐を起源とし、奈良時代に日本に伝来したと言われています。江戸時代は「楽器」というより、法要などの際に使用するための「法具」として普及するものとしてきた様です。明治以降に普及が廃止されたことで虚無僧以外の者も演奏するようになりまし

謡い継がれた古曲から、ニューミュージックの現代曲まで幅広い音楽を楽しむことができる様になりました。

現在「豊山会」では、毎月、第二、第四土曜日の午後一時から、「スター21」で教室を開いています。興味のある方はお越し下さい。

市民芸術文化祭には、都山流尺八として、また箏曲の演奏の助演年として毎年参加してきました。今年は第30回の節目の年。多くの皆様に演奏をお楽しみいただけたことを願っております。

文化協会のホームページがリニューアルしました！

文化協会の最新情報を発信しています。文化協会会員の紹介ページや、イベントカレンダーに写真やチラシ画像が掲載され、より魅力的になりました。会員さんは、ぜひ文化活動のPRに活用してください。市民の皆さま、イベントをチェックしてお出かけくださいね♪

桑名市文化協会HP
<https://bunkyo-kuwana.jp/>



令和3年度 桑名市文化協会育成補助金助成事業一覧

	申請者	事業名	開催期日	開催場所
1	金田枝里香バレエ教室	創立30周年記念第20回金田枝里香バレエ教室発表会	R3.4.18	NTNシティホール 大ホール
2	桑名美術クラブ	桑名美術クラブ45周年記念展	R3.10.7～10	くわなメディアライヴ 多目的ホール
3	桑名相撲甚句会	第18回 東海 西部地区相撲甚句発表大会	R3.10.30	大山田コミュニティプラザ 文化ホール
4	きいろいおうちの会	きいろいおうち春の夢～芸術文化で人々が繋がる街に～	R4.2.5～6	きいろいおうち
5	池坊桑名支部	池坊桑名支部 花展	R4.2.12～13	NTNシティホール 小ホールロビー
6	箏曲・三絃グループ「箏奏」	若葉コンサート(金壺軍来日30周年記念)箏曲&揚琴に歌を散りばめて	R4.2.27	大山田コミュニティプラザ 文化ホール

この中から2団体の方々に、活動紹介をしていただきます。



「海外で新たな感染症」その一報を呑気な私は、次第に収まるか他国の出来事といつも通り聞いていました。4歳で始めたバレエ。これまで表現することを自由に当たり前に、それが出来なかった時代は歴史上の出来事だったと。しかし、それが目に見えない新型コロナウイルスの為に脅かされ、この時代に現実になった令和2年。それでも予定していた発表会を4月無事に終え、次は何を演目に選ぶか生徒たちと期待に胸をふくらませていく思いは、次回どうなっていくのだろうか」と初めて不安を感じました。

次第に活動自体が規制され、緩和されても安全対策を施しながらのお稽古に、不自由を感じない中、生徒さん、保護者の皆さんの熱い思いと協力を得、30周年記念第20回発表会を開催すること

30周年

バレエを通して得たこと

芸能部門 金田枝里香バレエ教室
金田枝里香

を決意しました。全幕作品を演じるには時間と環境は過酷でしたが、むしろ集中力と協調性が生まれ、それぞれの成長に繋がり、令和3年4月、昨年同様の状況下、対策に協力いただき会場へお越しくださいました多くのお客様の拍手は、これまで以上に心にしみ、出演者には自信にも繋がりました。

コロナ禍で、桑名市文化協会、多くの関係者の皆様のご支援のもと、バレエを通して得た日常の大切さ、芸術・文化に関われることへの感謝の気持ちを忘れずに挑戦し続けて行きたいと思います。

45周年

人生百年楽しく元気に趣味を持ってポジティブに

美術部門 桑名美術クラブ

安田隆亮

桑名美術クラブ四十五周年記念展を今年十月開催致します。発足の先輩の意思を引き継いで継続して来た事、会員一同喜びを感じております。五年ごとの記念展ですのくわなメディアライヴにて百号までの水彩・油彩を展示致します。コロナ禍であり安全対策を講じますので高覧頂きます様、ご案内申し上げます。

さて寿命も延びて人生百年と言われる時代になってまいりました。趣味を持つておられる方は実年齢より若々しく見えます。当然見かけに比例して心も若くなつて



おられると感じます。現役中でも休日には何か自分に合った集中できる趣味を見つけれられると気分転換を図るにはいいと思います。幸い桑名市は恵まれていてまちづくり拠点施設で芸能・美術各種講座・サークルがあります。趣味を通じてストレス解消になり視野も世間も広くなります。

趣味や好きなことに費やすお金は不思議と余り惜しいとは思いません。趣味にお金を費やせばゆくゆくは国の経済に少しは貢献する事にも繋がります。好きなことをやって心の充実感を得ることは心の健康、体の健康につながります。カラオケで声を出して歌う事でストレス発散、胃潰瘍が治った、冬は風邪を引きにくいとか聞いた事があります。絵を描く事は何歳になっても出来、ボケ防止になるからと言われます。さあ心をもポジティブに一生挑戦しませんか。

活動にスポット

100周年

『継往開来』歩み続ける

音楽部門 桑名マンドリン倶楽部

豊田憲生



▲心をひとつにして演奏した前回発表会
コロナを乗り越え、100年の先へ繋ぐことを願う

時を遡ること100年前、当時（大正10年頃）国内にはまだ五指を数える程しかマンドリン楽団がなかった時代、この桑名の地に数名のマンドリン愛好家が集い当楽団の礎ともなる「桑名マンドリン倶楽部」を創立。その3年後に桑名町第二小学校（現桑名市立精義小学校）にて第1回演奏会が行われた、と各史書に記録が残されて

います。そして時代は移り、数回に渡る楽団名の変更や活動休止を繰り返して、1994年（平成6年）、志を継いだ現部員が『桑名マンドリン倶楽部』を再結成し、本年（令和3年）、創立100周年を迎えました。

本来であれば3月に100周年記念演奏会を開催する予定でしたが、今日におけるコロナ禍の影響を受け、やむなく延期せざるを得ませんでした。それでも私達は歩み続ける事を決意し、困難な状況にもかかわらず、来るべき時を信じて準備を行っているところです。

「楽しくなけりや趣味じゃないね」「楽しくなけりや合奏じゃない」をモットーに定期演奏会のほか訪問演奏や県・市の音楽祭にも参加。毎月第2・4土曜日の夜、大山田コミュニティプラザで楽しく練習を行っています。

私達は一緒に歩み続けてくれる新しい仲間を募集しています。経験者・興味のある方大歓迎！どうぞお気軽に一度見学にいらして下さい。

60周年

劇団すがおの60年

演劇部門 劇団すがお

加藤武夫

劇団すがおは昭和36年に「働きながら演劇を、わが住むほとりを開拓しよう」のテーマを掲げて発足しました。これまで500回以上の公演を行ってきました。単に

▼平成30年 市民芸術文化祭 戊辰戦争150年記念公演にて



芝居作りだけでなく、市民会館やコミュニティセンターの建築要望などの運動も行ってきました。

この60年

で自慢できるものは、員弁郡の学校公演（1978〜88）で、小学校が17校、中学校を5校、週末を使って隔年で公演してきました。2、3ヵ月週末を返上しての公演で、16年続き、私たちの大きな財産となりました。その他県下各地での公演は勿論、岐阜、名古屋、富山、遠く新潟や鹿児島での公演もありました。鹿児島公演は薩摩義士の治水工事を描いた「孤愁の岸」で、総勢40名で参加、鹿児島で1600名の観客でした。満員札止めのも盛況で感動を呼び、5年後にも再演の要請をうけて上演。この公演も好評で海津市、岐阜市からも公演要請を受けました。忘れることのできない公演でした。国際交流は韓国、アイルランドと他の文化団体と協力しながら行い、今も交流は続いています。

これらの活動は長年私たちを支えてくださった市民、観客の皆さんのおかげと感謝しています。

第30回桑名市民芸術文化祭 ポスター原画表彰式



今年度の文化祭ポスター原画には、小学生からベテランまで17点の応募があり、油彩、水彩、造形の写真、グラフィックデザイン等ジャンルも多彩で力作がそろいました。優秀賞には、桑名市在住の戸塚ちひろさんが選ばれました。作品は多度の上げ馬神事の馬の中に、桑名にまつわるたくさんさんのモチーフが描かれた印象に残るデザインです。戸塚さんは、桑名の文化を大切にしていきたいという思いを込めて描いたそうです。佳作には、戸塚しずくさんが選ばれました。なんとびっくり、親子で受賞となりました！
8月2日に関係者による表彰式を行いました。

桑名地名あれこれ(25)

矢田と矢田野

社会文化部門
(個人会員)

大河内 浩

昨年、矢田村についてふれましたが、よく似た名で矢田野というところがあります。国道一号線の道幅が変わる矢田町交差点から北へ進むと、桑名市街を過ぎ道幅がまた狭くなったあたりから一号線には矢田野橋・中矢田橋・北矢田橋と続けて短い橋が三つあります。昭和の時代にはまだ野木場の池があつたところで、このあたりをはさんで南側が東方の矢田野、北側が福島^{ふくしま}の矢田野と、今も字地名として残っています。

昭和23年自治会発足で矢田野町という町内ができましたが、34年に大橋通一丁目と改称しました。伊勢大橋通に対する名で、前回の新矢田と新矢田一丁目に似てます。

寛政八年(一七九六)と書かれた古文書に「矢田八幡の北裏、八丁畷^{はちようまた}辺り迄を矢田野という」との記事がみえます。八丁畷とは現在の一号線参宮町交差点に交わる東西道路ですので、更に北方となりますが、矢田八幡(立坂神社)が鎮座した太古の時代には、ずっとこのあたりまで矢田の属地の野原という感覚だったのでしょう。



国道一号線沿い北浜町地内に立つ参宮国道碑
昭和7年3月の道路完工時に西桑名町が建設
往年はこのあたりまで矢田野と呼ばれました

矢田八幡と通称される立坂神社の本祭神は神明宮大日靈社^{おほひるめのみこと}です。八幡社は後世にこの神明宮と同境内に祀られたもので、江戸時代の名所図会にも社殿が並んで描かれています。延長五年(九二七)に著された延喜式神名帳にある立坂神社は江戸時代には同名の神社がなく、どこに相当するのかわからない論争が既にありました。その候補の一つ矢田は、いち早く立坂神社を称え、続いて東方が称えました。ですが今一色・桑名村・江場・安永も起源を垂仁天皇の時代とする神明宮であり、太夫の益田神社も含め源流は同一かとも思われます。

ご賛助いただいております
特別会員の皆様
9月1日現在
(五十音順)

アートスペース美園様
医療法人桑名病院様
医療法人誠会山崎病院様
魚重様
お菓子処「和」様
カネソウ株式会社様
株式会社朝日鋳造所様
株式会社歌行燈様
株式会社グランビル様
株式会社山本園様
株式会社18bancho様
株式会社水谷精機工作所様
株式会社レイ・ステージ桑名様
木村洋子様
桑名シテイホテル様
桑名三重信用金庫様
在日本大韓民国民団三重県桑名支部様
中央不動産株式会社様
花月堂様
花江場中店様
花乃江場中店様
光精工株式会社様
ヒルカワ金属株式会社様
三重精機株式会社様
森田フードシステム株式会社様
有限会社茶子様
有限会社丁子屋様

日頃のご協力に對しまして、
深くお礼申し上げます。

編集後記

記念号の後文を僭越にも書くことになりました。今、東京オリンピックが開催され、猛暑の連日連夜、熱戦が繰り広げられています。また昨年来、世界では新型コロナウイルス感染症が蔓延し、なかなか収まる気配がありません。

この全く予想だにしかかった困難に、私たちは果敢に立ち向かっています。

人は未来を予測できません、それでも前へ前へと歩まなくてはなりません。

その原動力や原点となるのが、まさしくスポーツや文化の力と私は信じます。

ここに桑名文協創刊50号記念号を発刊できます事を歴代、文化協会に貢献された多くの方々に感謝し、桑名市文化協会の更なる発展を祈念いたします。(八月執筆)

(安田治三)

広報担当副会長 丹羽 宗俊
広報担当副会長 安田 治三
委員 文学部門 竹村 一雄
美術部門 加藤 由貴子
音楽部門 水谷 直人
芸能I部門 村瀬 昌子
芸能II部門 谷口 泰江
芸能III部門 伊藤 好子
演劇部門 相原 千景
茶華香道部門 小川 与松
社会文化部門 大河内 浩
趣味教養部門 加藤 誠